

第13回トウキョウサンショウウオ・シンポジウム
「**サンショウウオやカエルにまつわる
様々な話題**」

2011年3月5日(土)

東京都立多摩社会教育会館 鑑賞室

所在地 〒190-8543 立川市錦町 6-3-1 (東京都多摩教育センター内)

電話：042-524-7950 FAX：042-522-0719

1999年より開催されてきたトウキョウサンショウウオ・シンポジウムは、毎年全国より多数の研究者・保全活動家・ファンが集まって情報交換できる貴重な場として回を重ね、今年でとうとう13回目をむかえました。ここ数回のシンポでは、1998年の調査から10年ぶりの多摩地区全域での一斉調査を行い、トウキョウサンショウウオの現状をあらためて明らかとすることが主なテーマでした。その成果の一部は、都RDB改訂作業に取り入れられました。また、トウキョウサンショウウオへの新たな脅威が浮き上がってきました。このシンポでも繰り返し取り上げられてきた外来種アライグマの成体・卵のうの捕食による被害は、今後の大きな脅威となるでしょう。今回のシンポでも、アライグマについての最新の話題や、トウキョウサンショウウオの最後の聖地でもある千葉県房総半島での個体群の現状なども報告してもらいます。さらに、トウキョウサンショウウオだけでなく、カエル類の個体群の保全のために産卵場の整備が様々な人達により試みられていますが、青梅市の一地区での事例を紹介してもらいます。多くの方の参加を期待しています。

主催／トウキョウサンショウウオ研究会

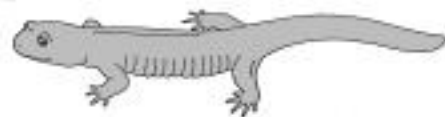
事務局(川上洋一)：東京都あきる野市平沢 473-6 Tel&FAX 042-550-0265

問い合わせ先：草野(首都大・理工・生命科学) Tel 042-677-1111 (内線 3761)

<http://homepage2.nifty.com/tkusano/salamander/index.html>

プログラム

- 13:00 開場
- 13:20 開会 (司会：川上洋一)
- 13:25 講演 **房総半島におけるトウキョウサンショウウオ：分布・生態・生息環境・
変遷・保全**
小賀野 大一・田中 一行・八木 幸市 (千葉県の野生生物を考える会)
- 14:25 講演 **トウキョウサンショウウオ保護のためのアライグマ対策の実践**
金田 正人 (三浦半島自然誌研究会/生物多様性 JAPAN)
- 15:15 休憩
- 15:25 ビデオ上映 **トウキョウサンショウウオの産卵** 松村しのぶ・中川遊野
- 15:40 報告 **カエル池プロジェクト**
飛弾紀子(さとやま散歩の会)・佐久間聡(西多摩自然フォーラム)
- 16:25 連絡・後片付けなど
- 16:30 閉会 (閉会後に懇親会を予定しております。)



房総半島のトウキョウサンショウウオ —分布・生態・生息環境・変遷・保全—

小賀野 大一・田中 一行・八木 幸市（千葉県野生生物を考える会）

房総半島に生息するサンショウウオ類はトウキョウサンショウウオ1種ですが、本種の主な生息地となる丘陵地や台地に刻まれた谷津は、水田として維持管理され近年まで比較的健全に保たれてきました。そのため房総の南部を中心に、本種の生息地は広域に残されてきたといえます。私たちは、1990年当初から房総の自然を代表する生物としてトウキョウサンショウウオを捉え、分布や生態に関わる各種調査や生息環境の保全を意識した活動を実施してきましたのでその概況を報告します。

1. 分布調査：1991年より卵囊と幼生の確認を中心に生息調査を実施してきました。その結果、南部の房総丘陵のほぼ全域と北部の下総台地の東側（九十九里平野に沿って）、及び九十九里浜平野に生息地が確認できました（図1）。現地調査および文献から得られた生息情報は858地点で、生息地点の含まれる約1km四方のメッシュでの総数は781となりました。これは、環境庁が行った第2回自然環境調査(1978年)と比較すると、新たな生息地の確認で分布域はむしろ広がったといえます。

2. 生態調査：1995年より、房総半島の北東部に位置する下総台地の谷津でモニタリング調査を行いました。1997年には、斜面林に接する休耕田を借り受け、溝を掘って斜面林から浸み出す水がたまるようにしました。その結果、多くの産卵が確認できるようになり、この溝を中心に本種の生態調査を実施しました（図2）。その結果、東京都で行われた研究成果と比較して、一腹卵数が多い、産卵の始まりが早いなどの違いが見られました。

3. 生息環境：産卵地は、耕作水田、休耕田、用水路、小池など水田耕作に関連した止水が多くを占め、その他は畑や学校及び林道の排水用の側溝、蓮田、社寺の池、林内の湧水や沢の源流部などとなりました。東京都や栃木県で実施された調査では、水田耕作に関連し



図1. 房総半島の地形とトウキョウサンショウウオの分布域（小賀野他 2008 より）



図2. 産卵場の造成（小賀野他 2010 より）



図3. 産卵数の変化（小賀野他 2008 より）

た産卵地の割合が50%に満たないのですが（草野・川上 1999、青柳・林 2004）、房総半島では90%を超え、水田耕作の依存度が高いことがわかりました。中でも産卵数の多い場所は斜面林と水田の境に掘られた溝でした。

4. 生息地の変遷：過去に調査を行った61箇所の産卵地を、2004年に再び調査したところ、52箇所で産卵数の減少がみられ（図3）、産卵の総数は3944個から1270個に減っていることがわかりました。また、卵嚢個数が50を越える規模の大きな産卵地は半数以下に減少し、全く産卵の見られない地点も数多くみられました。産卵数が減少した地点では、水量不足、水田の埋め立てや放棄など環境変化がみられるものがありました。

5. 保全に向けて：生息地のモニタリング調査、産卵場の維持管理に加え、教育・普及活動はとても重要であると考えています。トウキョウサンショウウオは千葉県二次的自然を代表する貴重な生物といえますが、残念ながらその存在は多くの人に

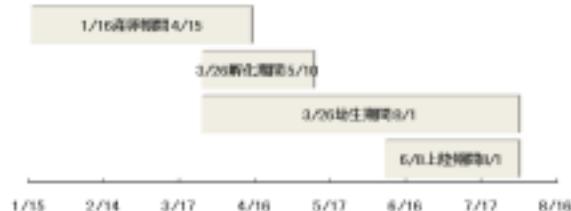
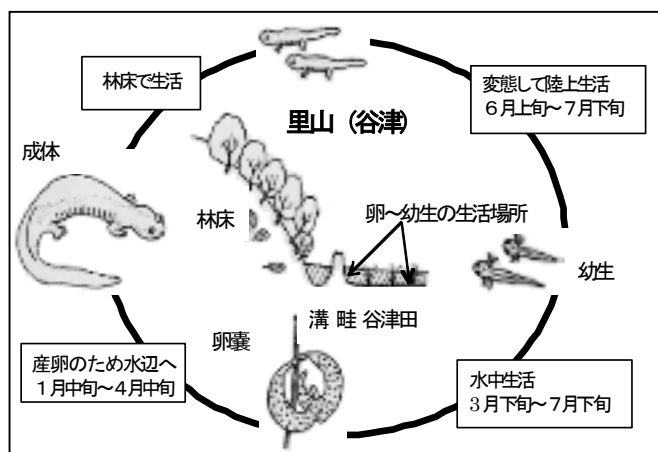
知られていません。そこで本種とその生息地への理解が重要と考え、高校生物の授業を通しての飼育実習、部活動における天敵の除去などの保全活動、地域住民に対する自然観察会（図4）などを実施してきました。

他地域の生息地と比較すると、房総半島にはまだ本種の生息環境が残っており、分布域も広いといえます。しかし、現在でも道路拡張や住宅地の造成により生息地の破壊と分断が進行し、また谷津田の放棄や圃場整備による水路のコンクリート化により産卵場の減少が続いています。このため、房総においてもトウキョウサンショウウオとその生息地の将来は決して安泰ではなく、保全に向けての継続的な取り組みと工夫が必要といえます。



○私達「千葉県の野生生物を考える会」がこれまで房総半島で行ってきたトウキョウサンショウウオに関する調査結果は以下の報告書に掲載されています。

- ・ 九十九里浜平野におけるトウキョウサンショウウオの分布と生息状況（2007）爬虫両棲類学会報、2007-1
- ・ 早春に産卵するニホンアカガエルとトウキョウサンショウウオの生息数の変化－谷津田における圃場整備の影響－（2007）千葉生物誌 57-1・2
- ・ 九十九里浜平野の大網白里町細草にかつてあったトウキョウサンショウウオの大きな生息地（2007）千葉生物誌 57-1・2
- ・ 千葉県のトウキョウサンショウウオは減っている（2008）千葉生物誌 58-1
- ・ 房総半島におけるトウキョウサンショウウオの生息域と特徴（2008）両棲類誌 18
- ・ 下総台地の谷津に生息するトウキョウサンショウウオの生態（2010）千葉生物誌 60-1



これまでの調査で明らかになった、下総台地の谷津におけるトウキョウサンショウウオの生活史（小賀野他 2010 より一部改訂して引用）